

創刊号 2006・9

NATURAL VOICE

エール学園支部

まもなく発足します

『組合』ということばはなんだかゴツゴツしているけれど、日本語屋らしく、自分たちのことばで思いを伝えていける『くみあい』活動を通して、誇りをもって働ける職場づくりができればいいな。〔H〕
仕方ないんだ・どうすることもできないではなく、とりあえず、こうなったらいいのに・・
心の叫びを表現しよう。道のりは長く険しいけれどもそんな思いも合体すれば、少しはウルトラマンになれる？ 〔ドン・イースト〕
組合がなくてもものごとがきちんと進むのが理想なのでしょうね。〔N〕
変えないために思い切って変える・・ってことも時には必要だよな。 〔ひよこまめ〕
日本語教師ってすばらしい仕事だけど待遇面が・・みんな考えていきましょうね。〔T〕
生まれてはじめて、組合なるものに籍を置くことになって、わけもわからず・・・ 〔M〕
「トラ、トラ、トラで半年暮らし、後の半年練寝て暮らし・・」ております。皆様とは不思議な縁を感じつつ・・・〔S〕
今回の加入を機に“働く”ってなんなんだろう？なあってことを考えつつ・・・ 〔A〕
新しい世界を体験するっていいものですよ！ ちょっとのぞいてみませんか？ 〔Y〕

日本語学校での賃金・労働・教育条件は恵まれているとはいえません。労働組合がなかったことも一因でしょう。エール学園支部は日本語学校の講師・職員に希望を届けるであろうことを確信し、期待しています。

大阪教育合同労働組合 執行委員長 山下恒生

エール学園支部結成のお知らせ

ごあいさつと案内

講師・職員の皆さん、エール学園での教育活動の充実と労働条件の向上をめざして、大阪教育合同労組エール学園支部を結成し、来る9月29日(金)に第一回支部総会をもつこととなりましたので、お知らせいたします。

現在、エールの日本語教師9名が組合に加入し、主に講師契約の内容をめぐる、学校側と交渉しています。講師が相互に忌憚なく意見交換し、視野を広げ、活発に研鑽しあえる信頼関係を築いていきたいと思っております。組合 = ユニオンの精神がそういう方向に生かされればと思っております。

みなさん、私たちの活動はいつもオープンにしています。関心のある方は、どうぞいつでもお気軽に声をかけてくださいね。

日時 9月29日(金)午後6～7時

会場 大阪教育合同労組(EWA)本部事務所

連絡先 06・4793・0633((EWA))

日本語教師で集まろう！

きっかけは… 学園理事長との団体交渉から支部発足まで

2年ほど前から、理事長の意向のもと、「メンタリング教育」という新しいビジョンが打ち出されました。今春、その理念について考えを問う理事長面談が専任に対して実施されましたが、その結果、長年勤務した専任講師の「再契約なし」の通告と数名の専任の非常勤へ降格が明らかになりました。こうした事態に当事者のみならず、多くの講師も大きな衝撃を受けました。学校側に撤回の働きかけを行う講師の動きもありましたが、状況を変えることはできませんでした。

新たな学期のスタートを控え、講師有志でこの問題を話し合ううち、こうした重要な課題を解決するには、個人では限界があり、組合加入が現実的な選択と考えるにいたりしました。そこで3月末、組合に加入した講師で学校側に4項目の要求を提示しました。

この間、3月より8月まで6回の団体交渉を重ね、7回めの8月初旬にようやく協定書の調印を終えました。これまでの交渉では、講師の不安定な立場への配慮、契約内容の法的整合性、更新時の講師への適切な対応、時給・給与体系の整備などを求め、改善を促しました。そして今後の計画的な活動のため、現在9名の組合員の合意を得て、支部を結成する運びとなりました。

今回は「専任」問題を焦点として第一段階を終えましたが、今後、非常勤講師も対象とし、定期的に具体的な交渉していく予定です。

この経験を通じ、労働者は法律によって不十分ではあるにしても守られていること、ただし、それを生かすには知識、経験が必要であり、組合は大きな力になること、それを今回の活動を経験した組合員のひとりとして実感しています。 (Y)